

南半球便り（その13）：ニュー・サウス・ウェールズ州訪問

5月11日

先週は、小まめに動きました。5月4日には日帰りでカウラへ、7-8日はシドニーへ。いずれも車でキャンベラから片道2時間（カウラ）、3時間（シドニー）は、かかる距離です。でも、広大なオーストラリアでは、この程度のドライブは日常茶飯事。オージー流です。

1. カウラ再訪

（1）紅葉祭り

「南半球便り（その3）」でご紹介したカウラに再び行ってきました。というのも、秋たけなわ（今が春の北半球とは、逆なのです！）にちなんで、初めての「紅葉祭り」が開かれたからです。日本のみどりの日と子どもの日に関連づけて、ボブ・グリフィス氏が率いるカウラ日本庭園文化センター財団が主催して、茶道、生け花、折り紙、着物の着付け、伝統玩具、紙芝居などの日本文化が広く紹介されました。コロナ禍で日本庭園が一時期閉鎖されていたため、その再開を祝う意味もありました。



「紅葉祭り」の様子

（2）美の極致

あらためてカウラの日本庭園の美しさに息をのみました。最初の訪問では、「南半球随一」と形容しましたが、季節の変化を越えて輝きを増した姿にみとれ、思わず私のスピーチ【[ここでご覧いただけます。](#)】では、「海外で最高の日本庭園」と形容していました。美しいものの前では一貫性に欠けてしまい、すみません。でも本音です。是非一度お越しください。



カウラの日本庭園

（３）心温まる歓待

波打つような緩やかな丘陵地帯に抱かれたこの町に来るたびに感じるのは、人々の日本に対する優しい眼差しと、素朴で温かいもてなしです。筆舌に尽くしがたい悲劇の舞台であっただけに、感慨深いものがあります。日豪の平和・和解と相互尊重の道のりに思いを致しつつ、豪州兵、日本兵それぞれの墓地にウエスト町長と一緒に献花してまいりました。



献花式の様子

（４）旧友との再会

嬉しかったのは、幼なじみで多摩丘陵の幼稚園、小学校で共に学んだ旧友の児童文学者・渡辺鉄太氏と再会できたことです。紙芝居実演のため、メルボルンから駆けつけた渡辺氏。その姿を一目見た瞬間、時計の針が50年ほど逆戻りしました。カウラで散華した英霊が引き合わせてくれたのでしょうか？



渡辺鉄太氏による紙芝居の様子



渡辺鉄太氏との再会

2. ニュー・サウス・ウェールズ（NSW）州公式訪問

（1）シドニーへ

着任以来、四度目のシドニー出張になりました。「公式訪問」になると、受入れ側の NSW 州がアレンジしてくれ、ビーズリー総督、ベレジクリアン州首相、オデイ下院議長、メイソン・コックス上院議長、バサースト州最高裁長官他をそれぞれ個別に訪れ、歓談することができました。これらの会談では、日豪両国が民主主義・法の支配といった基本的価値を共有していること、日本企業が短期的な金儲けではなく豪州への長期的なコミットメントを示してきたこと、今後とも西シドニーのインフラ開発を始め日豪が協力できることが多々あることなど、多くの点について意見を交換してきました。

ハネムーンで日本に行かれたと「告白」された方を始め、どなたも愛着を持って日本との関係を大変前向きに語られていたことに非常に元気づけられました。ある要人から、「日本の方と会っていると、気張らずにリラックスできる。」との言葉を聞いた時、現下の日豪関係の神髄を端的に表現してもらった気がしました。



ビーズリーNSW州総督への訪問



ベレジクリアン NSW 州首相への訪問

（２）西郷輝彦さんとの出会い

共通の知人の紹介で、シドニー滞在中の西郷輝彦さんとお会いすることができました。西郷輝彦といえば、昭和 36 年生まれの私にとっては、男性歌手の初代「御三家」の大スター。歌手としてのみならず俳優としても大成された方のオーラと言葉の重みをしみじみと体得しました。日本における豪州の存在感をどうやって高めていくか、じっくりと意見交換をさせていただきました。



西郷輝彦さんとの意見交換